

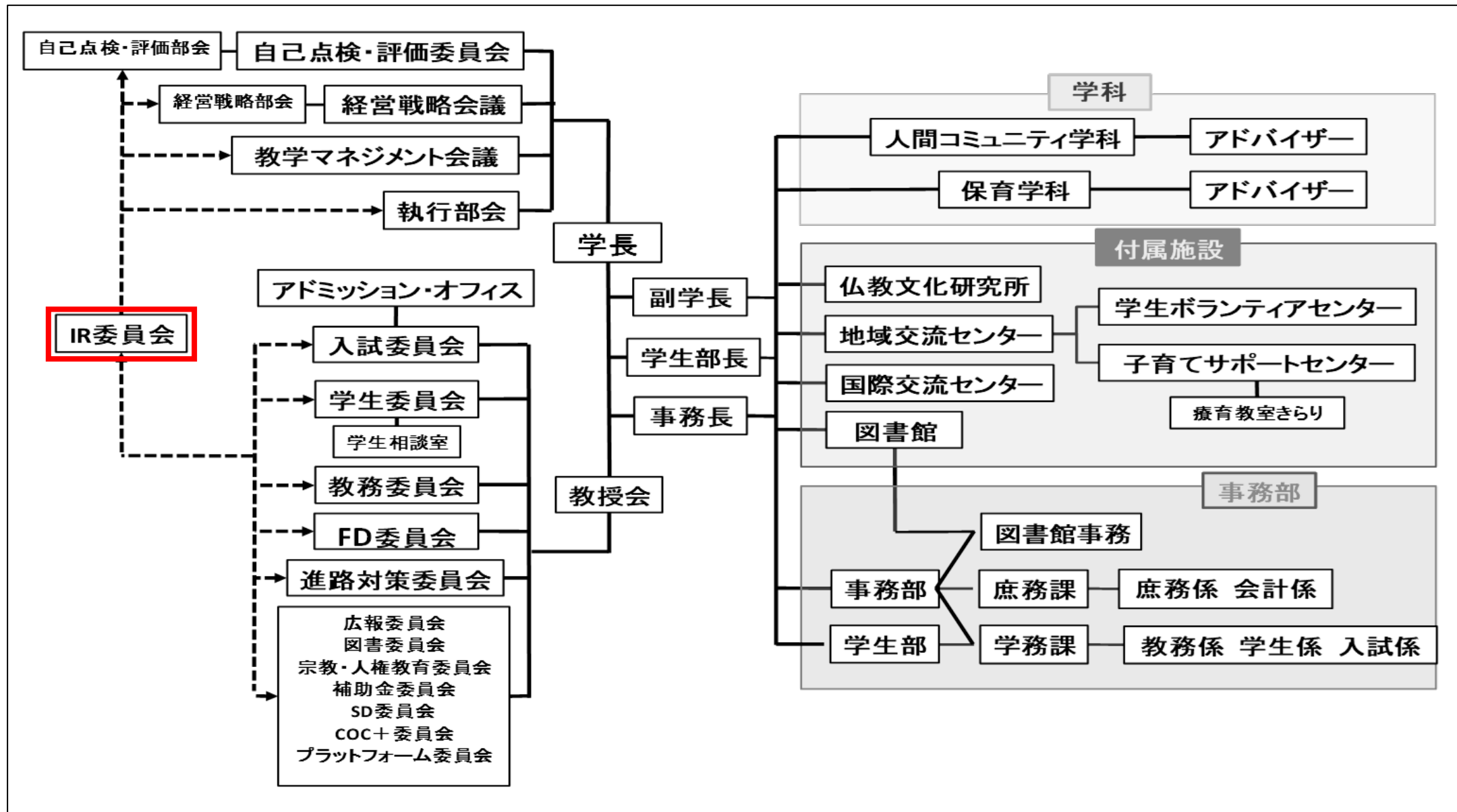
九州龍谷短期大学

教学IRを担当する組織・部局の概要

## 組織の名称及び目的

- ・ 名称：IR委員会
- ・ 目的：この委員会は九州龍谷短期大学（以下「本学」という。）の教育目標を達成するため、本学の教育及び学生支援に関する様々な情報の統合的分析と情報提供・助言等を行い（この活動をインスティテューショナル・リサーチ（IR）といい、そのための組織機関をIR委員会という。以下「本委員会」という。）、本学の教育活動の充実発展に寄与することを目的とする。

九州龍谷短期大学 組織図



## IR委員会の業務

- (1) 入試選抜に関する情報収集、分析及び入学生受け入れ方針への提言に関する事。
- (2) 教学に関する情報収集、分析及び教育方針への提言に関する事。
- (3) 学生生活に関する情報収集、分析及び学生生活支援への提言に関する事。
- (4) 在学学生及び卒業生の進路に関する情報収集、分析及び就職支援への提言に関する事。
- (5) その他本委員会の目的を達成するために必要と認められる事項に関する事。

# 九州龍谷短期大学のアセスメントポリシー

## 1 目的

九州龍谷短期大学では、建学の精神に基づいた人材養成の基礎となる教育を改善し、教育の質を向上させるため、三つのポリシー（DP、CP及びAP）に基づき、機関レベル（短期大学）、教育課程レベル（学科）及び科目レベル（授業）の3段階で、直接的・間接的指標を用いて、学生の学修成果を評価する。

### (1) 機関レベル（短期大学全体）

学生の卒業率、資格及び免許等各学科の専門性を活かした専門領域への就職率及び進学率などの直接的指標と、学生の進路希望調査、学生生活満足度調査などの間接的指標も用いて、三つのポリシーに基づいた学生の学修成果の達成状況を検証する。

### (2) 教育課程レベル（学科）

各学科の教育課程における資格及び免許の取得状況、卒業要件達成状況等の直接的指標と、学修行動調査や学修ポートフォリオ等の間接的指標を用いて、三つのポリシーに基づいた学生の学修成果の達成状況を検証する。

### (3) 科目レベル（授業）

シラバスで提示された学修目標に対する評価（成績評価）等の直接的指標と、授業評価アンケート調査等の間接的指標を用いて、三つのポリシー及びカリキュラム・ツリーに基づいた学生の学修成果の達成状況を検証する。

## 2 実施部署

アセスメント・ポリシーに基づいた学修成果の評価は、教学マネジメント会議統括の下、教務委員会が実施する。

## 3 学修成果の具体的指標

	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
機関レベル	<b>【直接的指標】</b> ・入試選抜試験結果 <b>【間接的指標】</b> ・調査書等の記載内容 ・進路希望調査	<b>【直接的指標】</b> ・退学率、休学率 <b>【間接的指標】</b> ・学生生活満足度調査	<b>【直接的指標】</b> ・就職率 <b>【間接的指標】</b> ・卒業時満足度調査 ・卒業生アンケート調査 ・就職先アンケート調査 ・達成度調査
教育課程レベル		<b>【直接的指標】</b> ・修得単位数 ・GPA <b>【間接的指標】</b> ・学生生活満足度調査 ・学修行動調査 ・ジェネリック・スキル調査 ・学修ポートフォリオ	<b>【直接的指標】</b> ・学位授与数 ・免許及び資格取得率 ・GPA <b>【間接的指標】</b> ・卒業時満足度調査 ・卒業生アンケート調査 ・就職先アンケート調査 ・達成度調査
科目レベル		<b>【直接的指標】</b> ・成績評価 ・パフォーマンス評価 <b>【間接的指標】</b> ・授業評価アンケート調査 ・学修ポートフォリオ	

## 実施している教学IRの主な内容（情報収集の例）

- 履修者数まとめ
- 資格取得状況
- コース・学修成果別 **GP**平均
- 科目別 **GP**平均
- 卒業生アンケート結果
- 学位取得状況
- **GPA**分布状況
- **GPA**平均一覧表
- 成績評価分布
- 学修時間調査結果  
(授業評価アンケート結果)
- 就職先（企業・園）アンケート結果
- 学修成果に関するアンケート結果
- 就職状況
- 出身高校偏差値、評定平均 等

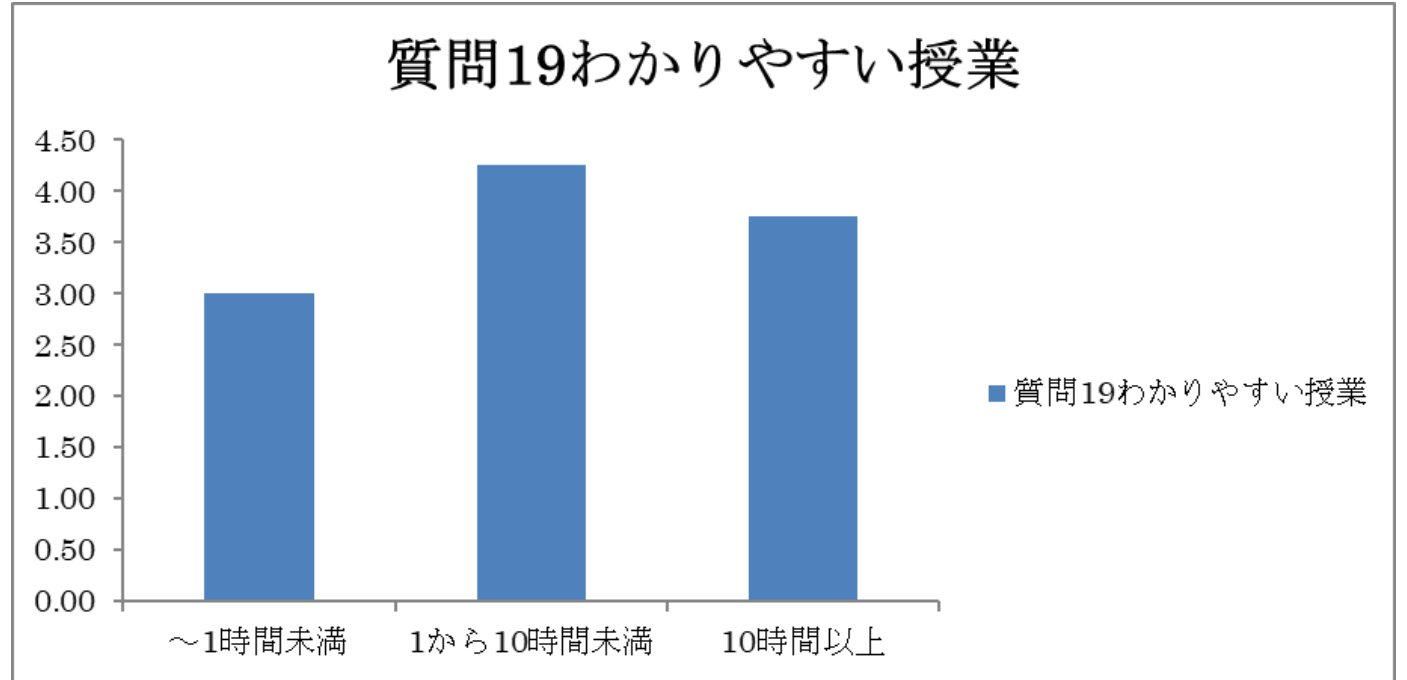
## 教学IRの活用実績例（学生の時間外学習と授業についてのわかりやすさの比較）

- ・自宅学習が1時間未満の学生と1時間以上の学生において有意な差がみられた。

- ・学習時間の短い学生は授業をわかりづらいと認識している割合が高い。

→教員は学生が理解しやすい授業内容を意識する必要がある。  
また、授業の中で困っている学生が一定数いる認識を持って授業する必要がある。

- ・しかしながら、高校時代までの家庭学習の経験のなさ(高校時点で1時間未満の学生は36%)であることや、基礎学力などの問題もありアドバイザー中心に面談の際にサポートする必要がある。



# 教育改善等の事例

		専門的な知識や技能	全般的な一般教養	社会人基礎力										具体的な一般教養					
		b. 専門的な知識や技能)	c. 幅広い知識や教養	社会人基礎力総得点	e. ひとつの問題を深く探究する態度	f. 多様なものの見方を知って受け入れること	h. 一般的な常識や礼儀・マナー	i. 人とのコミュニケーション能力	j. チームで仕事をする力	k. リーダーシップ	l. 自分で考え、行動する力	m. 最後までやりぬく力	n. 自分に對する自信	一般教養総得点	a. 文章表現の能力	b. 数理的な能力	c. 情報収集能力	d. プレゼンテーション能力	e. コンピュータ (WordやExcelの使い方を含む) やインターネットの活用方法
<b>GPA</b>	Pearsonの相関係数	0.303	0.190	0.360	0.402	0.318	-0.002	0.193	0.112	0.049	0.345	0.381	0.246	.438*	.561**	.445*	0.304	0.231	0.238
	度数	26	24	24	24	25	25	25	24	24	25	25	25	22	23	22	24	23	23

\*. 相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。  
 \*\*. 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。

- GPAと「専門的な知識や技能」「全般的な一般教養」「社会人基礎力」「具体的な一般教養」の関連においては、「一般教養総得点」「文章表現の能力」「数理的な能力」との間に正の相関がみられた。
- 多くの科目の成績評価で使用されている、レポートや筆記試験に関わる文章力や論理的思考の側面が、GPAと関連していると考えられる。
- 教養科目、専門科目、演習、実習等のGPの平均値などそれぞれに対応した数値での検討を今後行う必要がある。
- しかしながら、文章表現力や数理的な能力が多くの科目で求められていることを考えた場合、基礎学力の低い学生の底上げを図るためのプログラムや初年時教育の検討が必要であると考えられた。



基礎学力向上プログラムの開始 (2022年)



在学生アンケートにおける授業時間外学習の時間と授業の理解度との関連

就職先アンケートの結果による本学のカリキュラム編成の検討

卒業時調査における学修成果とGPAとの関連

等

教学マネジメント会議に提出し、次年度のカリキュラム編成や教養教育に関する検討に用いられている。